



都市創造学部完成

亜細亜大学都市創造学部 学部長

松岡 拓公雄

2016年4月に都市創造学部は開設された。試行錯誤の4年が経過、ようやくワンサイクルを終え初めての卒業生を出して正式な完成となる。ここまで全教員は社会学と経営学を基盤にした学部の理念「都市生活者を幸せなものにする」というスローガンのもとに一丸となって振り返る余裕もなく突き進んできた。

一期生も教員も初めてのスタートを切り、今日まですべてが試練であったといっても過言ではない。この間、学長も都市創造学部の生みの親である池島先生から、栗田先生、大島先生と目まぐるしく変わる中、理解を得ながら、一方で様々な方面から都市創造学部への言われもない風当たりも感じて来たが、不安定の中で何とか4年を乗り越えて学内に馴染んできたと言って良いであろう。教員が一枚岩となって進んできた証拠である。

2年目には学部最大の山場である2年生全員留学の実践、事前から学生に何度も研修を重ねさせ、アジア・アメリカ各地各都市へと多くの学生を留学させることができた。想定外のトラブルも数多く発生したが、職員と教員の身を削るほどの尽力で一つ一つ丁寧に対応し乗り越えることができた。その試練を重ねるごとに臨機応変に対応できる経験力となっている。しかし、留学中はこれからも気を抜けない想定外の場面が連続することは予想しておかねばならない。これは次世代の事を考え、留学制度を維持して行くための学部教員と関係職員との間でなすべき連携のルール化と分担化を図る大きな課題として現在浮上している。一方で、嬉しいのは帰国した学生の予想外の成長ぶりである。これが大きな成果となっている。グローバルな視点でコミュニケーション能力をもつ学生の育成という文科省の意向に沿うこの教育があるからこそ、学部の教育の柱である留学制度は大きな意義があり学生には魅力がある。

留学体験の学生らのオープンキャンパスでのアピールは高校生にも響き、また教員らの努力によって対外的に都市創造学部の存在が徐々に認知されている結果も重なり、4年目の学部受験者数は倍増し偏差値も格段に上がる結果となったが、次年度はその上昇評価の反動があり、逆に本気で都市創造学部を理解して目指す学生が増えていると考えられる。

また、初めての卒業生を高い就職率で輩出し安堵している。教員には実務経験者が多いせいか、その就職先は多彩である。今後の第一期卒業生の育成された能力発揮と活躍を多いに期待したい。

時の経過とともに、今後は退官される先生の引き継ぎや専門科目の見直し等で、人事案件も大きな課題となるであろう。学部の理念を変えずに、新カリキュラムへの移行、新たなステップにあたって、時代を先読みした学部の方向性をしっかりと定め直し、学園のためにも学生のためにも学部独自の質を高めて行かねばならない。

この紀要にもその片鱗が残って行き何事も積み重ねがものを言ってくる。教員達のチーム力をさらに発揮し、安定した引き継ぎをするための大きな改革・体制も今後考えて行かねばならない。すべては未来をになう若者の意識と能力を磨き、社会貢献できる都市に関わる多くの人材の育成と輩出をするために、それが我々の使命である。